

⑫ ペーパータオルでふく



ペーパータオルでぬぐい取るように、水気をよくふき取ることで、付着している微生物をさらに減らすことができ、アルコールの消毒効果も高まります。

●ペーパータオルの使いすぎに注意しましょう！

感染性胃腸炎の 感染拡大予防のポイント

- 日常的に嘔吐・下痢の症状を呈する患者に適切に対応することから対策は始まっている。

① 発生状況の把握

施設内での通常時の感染症発生状況の把握
地域の感染症発生状況についての情報把握

② 早期の感染対策

個室収容と経過観察
(脱水や窒息、合併症に注意)
環境整備
手洗いの徹底、排泄物・吐物の適切な処理

③ 明確な情報提供と共有

職員及び利用者（利用者家族）への状況説明
施設に出入りする者への周知

ノロウイルス感染症の早期発見のポイント

- 次のような状況で、嘔吐・下痢患者が数日以内に2名以上発生すれば要注意
- ① 噴出様嘔吐あり（発症例の50%にみられる）
- ② 症状持続時間が12～60時間
- ③ 潜伏期間が12～48時間
- ④ 職員と患者が発症している

症状のある人への対応

- 衛生行動の徹底
 - ① 手指衛生
 - ② 排便後の手洗い
 - ③ 嘔吐時の対応（単独処理させない）

症状のある人への対応

- 嘔吐または下痢が頻回（>2回／勤務）
で以下のいずれかの状況がある
 - ① 衛生行動がとれない
 - ② 失禁している



- 原則個室収容
 - ① 感染性胃腸炎が否定されるまで
 - ② 症状消失後48時間まで

感染症を疑った時は...

一般職員・感染症担当職員

具合の悪い入所者
や職員が目立つ

症状の確認



他に体調の悪い
利用者や職員が
いないか

- ・ 発熱、嘔吐、下痢、咳、皮膚の異常など
- ・ 2～3日前からの記録も確認
- ・ 施設全体における状況の把握、記録
人数、症状（日時、階、ユニット、部屋毎）
受診状況、診断、検査、治療内容
通常の発生動向との比較
職員の健康状態についても把握

感染症担当職員

報告



施設全体における
発生状況を把握

施設長

報告・指示



施設管理医

連絡
(電話・報告用紙)



施設所管課・保健所

保健所等への報告が必要な場合

1. 同一感染症（疑われる者を含む）による死亡者又は重篤患者が1週間以内に2名以上発生した場合
2. 同一感染症（疑われる者を含む）が10名以上又は全利用者の半数以上発生した場合
3. 上記に該当しないが、同一感染症における通常の発生動向を上回る発生が疑われ、施設長が特に報告を要すると認めた場合

標準予防策

スタンダード・プレコーション

すべての患者の血液・体液・分泌液・排泄物・創傷皮膚・粘膜などは、感染する危険性があるものとして取り扱わなければならない

- 血液や排泄物などは素手で触らず、手袋を着用
- 手袋をはずした後は手洗い・手指消毒
- 血液・体液の飛沫が考えられるときは、マスクやゴーグルを使用
- ケア中に血液・体液で白衣などを汚染しそうな時はエプロンを使用する